



つよい子

余市町立大川小学校 学校だより
第 6 号
令和 8 年 7 月 24 日発行

【令和8年度重点目標】・自分の思いを語り、相手の考えを認め、自己調整しながら主体的に学ぶ子どもの育成
・『心・環境・関係』を整え、自ら考えて行動する子どもの育成

自分を律して、自分を鍛え 幸せに

～ 守る、つける、働く ～

校長 大山 敏広

◆厳しい暑さが続いています。そんな中でも、懸命に学習に取り組む子どもたちの姿には、たくましさを感じます。登校時、学校前の横断歩道で「今日は暑くなりそうだから水分をしっかりと摂って、気をつけて過ごしてね」と声をかけると、ある子どもから、「校長先生も気をつけてくださいね」と自然体で優しい言葉が返ってきました。こうした何気ないやり取りの中に、子どもたちの心の成長と、周囲への思いやりが育まれていることを実感し、嬉しく思いました。

◆先日、本校で3年半に渡り英語（外国語活動）の学習をサポートしていただいたALT との「お別れの式」がありました。式の後、多くの子どもたちがALT のもとへ駆け寄り、ハイタッチを交わしながら別れを惜しむ姿がありました。言葉の壁を超え、心が繋がっていた証と感じました。本校の子どもたちの温かさ、優しさを改めて感じた光景でした。

◆夏休みを迎えます。これは、昨年から続けていることですが、長期休業前の終業式では、必ずこの3つのワードを子どもたちへ伝えています。

「守る」：絶対に命を守ること。
交通ルールや社会のマナーを守ること。
「つける」：生活にけじめをつけること。
自分で決めたことにしっかりと取り組む場面と楽しむ場面のめりはりをつけること。
「働く」：家族の一員として、家の中で自分の役割を果たすこと。長い休みだからこそできる手伝いに励むこと。

◆大人であれ子どもであれ、様々な欲求があります。休みたい、遊びたい、〇〇へ行きたい、〇〇が欲しい。その欲求と自分がしなければならないことやその時の状況を天秤にかけ、今どうすべきかを判断し、行動することが「自律」です。自律はやがて「自立」へとつながります。

◆しっかりと自立し、子どもに幸せになって欲しい…私たち大人は願います。そのためには、今、子どもに何をさせるべきか、また何を我慢させるべきかを考え、意図的に声をかける必要があるように思います。ものや情報があふれるこの時代、「なかった時代」に比べて自律のハードルが高くなっています。ゲーム、ネット、スマホなどの正しい付き合い方は、その筆頭にあげられます。



◆自律のためのあらゆる判断を6歳から12歳の子どもたちに全て委ねるということは、難しいように感じますし、危険が伴うこともあります。やはり大人のサポートが必要です。夏休みは、子どもたちが自律を試され、自分を鍛える時間でもあります。大人の適切なサポートの下で自分らしく輝き、安全・健康で思い出深い夏休みにしてほしいと願っています。

◆1学期の間、保護者の皆様には多大なるご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。今月は個人懇談にもお越しいただき、ありがとうございました。暑さ厳しい折、皆さまくれぐれもご自愛ください。引き続き2学期も子どもたちの未来のために、御協力の程、よろしくお願いいたします。

